

益田圏域地域医療構想調整会議 議事概要

【日時】令和元年 10 月 28 日(月) 19 時 00 分～20 時 45 分

【場所】益田合同庁舎 大会議室

【出席者】病院、医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問ステーション協会、島根県保険者協議会、老人福祉施設協議会、介護支援専門員協会、介護老人保健施設、社会福祉協議会、管内市町等

【議事内容】

- 1 地域医療構想における再検証が必要な医療機関の公表について
- 2 地域医療構想の進捗状況について
- 3 医師確保計画について
- 4 外来医療計画素案について
- 5 その他

【主な意見・協議結果について】

1について

国の公表は、今後必ず再編を求めるものではなく、あくまで議論の材料の一つ。今回示されたデータは、平成29年のものであり、津和野共存病院は、すでに医療機能を見直しがされている。

この度山陰中央新報の記事では、津和野共存病院の病床数は 50 床と掲載されていたが、これは見直された後の数値である。(平成 29 年は、99 床)

2について

- ・国のいう急性期・回復期等のとらえが、住民が思う急性期や回復期のイメージと乖離しており誤解を生んでいる。住民への周知が必要。
- ・益田赤十字病院は、次期計画までは現状の病床維持。
- ・益田地域医療センター医師会病院は、今年度、透析機能充実と介護医療院の開設。今後、残りの休床病床を多目的に活用できるよう変更予定。
- ・津和野共存病院は、昨年度、休棟中の療養病棟を老人保健施設へ転換。地域包括ケア病床を増やすことを検討中。
- ・六日市病院は、吉賀町医療介護在り方検討会議で、今後どのようにダウンサイジングし、何を残すのかを検討。
- ・松ヶ丘病院は、地域医療構想の対象ではないが、人口減少とともに適切なダウンサイジングの検討が今後必要と考えている。

3について

- ・医師確保計画に実効性をもたせるためには、法的枠組みをもうけないと変わらない。
- ・誰が実施するのか主語を明確にすること。
- ・医師不足には、地域枠の人数を増やす、奨学金を増やす等学生を地道に増やすことが必要である。

4について

- ・在宅医療の充実において医科歯科薬科の連携は不可欠。
- ・圏域外来医療計画素案への意見集約のための文書照会を後日行う。(所属の意見も併せて委員へ依頼)

5その他

- ・しまね地域医療支援センターの役割の整理が必要
- ・地域枠の学生の希望と出身地域が求める医療ニーズのミスマッチがおこっている。